

働き盛りのうつ自殺予防対策「富士モデル事業」【静岡県】

(実施主体) 静岡県精神保健福祉センター

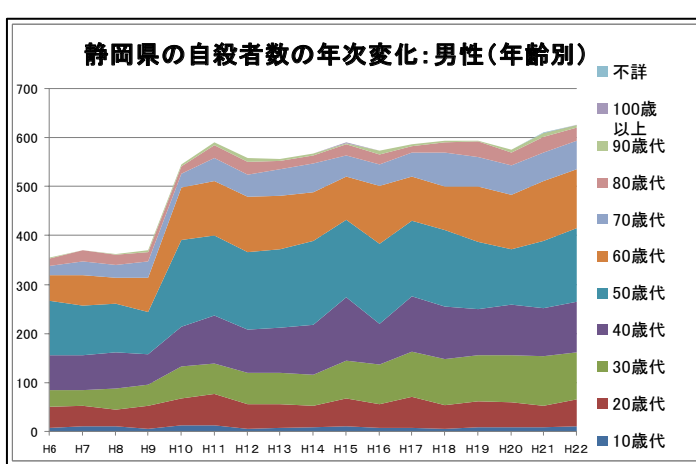
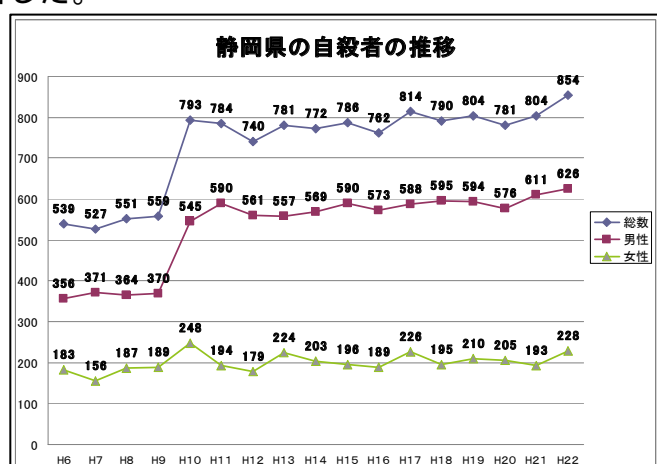
(基金事業メニュー) 普及啓発事業・人材養成事業

(実施期間) 平成 17 年度～

(実績額) 平成 23 年度 23,494 千円

【事業の背景・必要性・目的】

静岡県における自殺者数は、全国と同様に平成 10 年から急増後 800 人前後で推移しており、特に 50 歳代をピークとした中高年男性の自殺者が急増していた。そこで、自殺死亡率の上昇が深刻化している働き盛り男性をターゲットとしたうつ・自殺予防対策を確立するため、製紙業が盛んで労働力人口の多い産業都市である富士市をモデル地区として、「富士モデル事業」を平成 18 年度から開始した。



【事業の内容】

富士モデル事業は、自殺と関係の深いうつ病の早期発見・早期治療システムの構築にあたり、うつ病の身体症状、特に不眠症状に着目している点が大きな特徴となっている。具体的には、不眠の症状からうつ病の気づきを促す「睡眠キャンペーン」と、不眠が継続している働き盛り世代男性をかりつけ医・産業医から必要に応じて精神科医へとつなげる「紹介システム」の 2 本の柱から成り立っている。

【事業実施に当たっての運営体制等】

平成 17 年度から「働き盛りのメンタルヘルス日本一をめざして」をスローガンに、精神保健福祉センター内で検討を重ね、富士市医師会、富士市、富士労働基準監督署、富士保健所等の関係機関と連絡調整を図りながら事業の実進を進めてきた。

<睡眠キャンペーン>

精神保健福祉センターが事務局となり、富士市（健康対策課・障害福祉課）、富士労働基準監督署、富士保健所（福祉課・医療健康課）、県庁精神保健福祉担当課、司法書士で構成されている「うつ・自殺対策業務連絡会」（1 回/月）で、効果的な睡眠キャンペーンに向けて意見交換しながら推進してきた。平成 22 年度からは、富士市主催の「事業連絡会」として、継続されている。

<紹介システム>

精神保健福祉センターが事務局となり、富士市医師会の協力の下、かかりつけ医（内科、外科、整形外科）5名、地元精神科医5名の推薦を受け、紹介システム検討委員会を設立し、紹介基準、チェックリストの内容、紹介状・返信書の様式等の検討を重ね、紹介システム説明書を整備し実施に至っている。

【事業の成果、工夫をした点、その他特筆すべき点】

<睡眠キャンペーン>

ターゲットとなる働き盛り世代男性の訴求性を高めるために以下の工夫をした。

①不眠を切り口とした明快なメッセージ

「パパちゃんと寝てる?」、「2週間以上続く不眠は、うつのサイン」、「お医者さんに行かなくちゃ!」

②娘から伝える

③多様な媒体の活用

また、従来うつ病を前面に出した施策では、「こころのバリア」が支障となり、特に働き盛り世代男性には受け入れられにくい課題があった。このため、「睡眠」をキーワードとすることで、誰にでも理解されやすく、健康問題として様々な立場で取り組みやすくなっている。



<紹介システム>

かかりつけ医・産業医がうつ病のスクリーニングをしやすいように紹介のための基準や補助アイテムの作成をした。紹介システムの取組を通して、かかりつけ医・産業医の「うつ病」に対する関心が高まり、さらには、かかりつけ医・産業医の距離が縮まり、「顔の見える関係」になることで、連携が深まっている。

<その他>

長期にわたって睡眠薬が処方されているが効果が見られない人や、頻繁に市販の睡眠改善薬を購入する人に、医師とよく相談するよう薬剤師が声をかける取組を実施している。富士市内の薬局すべてが身近な相談窓口であり、薬剤師がゲートキーパーとなる取組である。

また、うつ病に起因する不眠を解消するために寝酒に頼る人の存在も想定されることから、酒販組合の協力により、啓発ポスターの掲示を小売酒屋に依頼したり、ステッカーを酒販店の配達用軽トラックに貼るなどの依頼をしている。

(問合せ先) 静岡県健康福祉部障害福祉課
 TEL:054-221-2435
 E-mail:seisin@pref.shizuoka.lg.jp
 URL : http://www.pref.shizuoka.jp//